

＜総合的な学習の時間・教科指導＞（第3学年・地歴公民科）

「新聞切り抜き作品」作りへの取り組み ～「新聞って面白い！」社会への関心を持たせるきっかけとして～

教諭 前田 洋子

はじめに

平成25年度から、地歴公民科の教員で、授業や総合的な学習の時間を利用して「新聞切り抜き作品」作りを行ってきた。この「新聞切り抜き作品」作りは、NIE（教育に新聞を）事業の1つとして、近年多くの学校で取り組まれており、中日新聞社がコンクールも実施している。いろいろな記事を読むことで、読解力・語彙力・文章力が向上し、考える力・判断力・表現力も高まると期待されるが、何よりも生徒の意識が「新聞って難しそう」から「新聞って面白い」と変わっていくきっかけとなる。本校に限らず、最近では新聞を読まない生徒が増えているが、多くの知識・情報を知り、広い視野を育てていくのに新聞は貴重な教材である。今年度は第3学年と連携し、7月から9月にかけて普通科2クラス・調理国際科1クラス・生活デザイン科2クラスで「新聞切り抜き作品」作りを行った。まだまだ見直しや反省が必要であるが、今年度の取り組みの様子を報告する。

1 取り組みの概要

(1) ねらい

- ア 新聞記事に目を通す機会を作り、新聞や社会の動きに関心を持つきっかけとする。
- イ グループでの活動を通じ、コミュニケーション能力や協調性を養う。
- ウ 模造紙に貼ったり、レイアウトを考たりすることで、表現力・構成力を育てる。

(2) 対象

- 3年1・2組（普通科）80人（男子：55人、女子：25人）
- 3年4組（調理国際科）38人（男子：14人、女子24人）
- 3年5・6組（生活デザイン科）76人（男子：3人、女子：73人）

(3) 計画

- ア 実施時期は、1学期期末考査後から9月まで。9月末の文化祭での展示と、9月中旬から始まる就職試験に合わせた。
- イ 普通科は総合的な学習の時間を利用し、担当教員が指導にあたった。調理国際科・生活デザイン科は総合的な学習の時間がないため世界史Aの授業時間を利用し、教科担任が指導にあたった。
- ウ 普通科の担当には、昨年度まで指導の経験のある地歴公民科の教員が含まれていなかったため、中日新聞社NIE事務局の加藤榮治氏に作品作りのオリエンテーションを受けた。

(4) 方法

- ア 中日新聞社のコンクール規定に合わせ、1グループは1～3名とする。だいたいどのクラスも15グループぐらいになった。
- イ 文化祭において作品を展示した。管理職の先生・第3学年の先生が優秀作品を選考し、「〇〇賞」のリボンを作品に貼った。これは生徒にたいへん好評であった。



文化祭での展示

2 取組内容

(1) テーマを決める

新聞を持ち寄り、グループで話し合っってテーマを決める。新聞は自宅から持参させるほか、教員が自宅や図書室のものを持ってきて用意した。テーマは実際に新聞が手元にあった方が決めやすい。あまり難しいものにしてしまうと、意見や感想が書きづらくなるので、できるだけ身近な話題を選ぶようにアドバイスを。今年度は、藤井聡太四段、北朝鮮のミサイル問題、九州北部豪雨などのテーマが多く選ばれていた。また、調理国際科は「食」に関するテーマが目立った。

(2) 新聞記事を集める

2～3時間ほど使って、テーマに関する内容の記事を見つけ、切り抜いていく。新聞には社説やコラム、読者の意見なども載っているので、全体に目を通し幅広く記事を集めるようにアドバイスする。また、新聞に載っているものなら、写真や広告、文字も使えることを伝えると、「何かないか」と改めて新聞を見直す生徒もいた。たくさんの切り抜きをする必要があるので、グループ内で分担を決めたり、声を掛け合ったりしながら作業を進めていた。



(3) 記事を分類・仕分けする

5年ほどこの活動を指導しているが、最も重要だと思うのはこの段階である。生徒は、集めた記事を模造紙に貼ればよいと単純に考えてしまい、記事の内容を読み取り、それを再構成して自分たちの考えをまとめていくということがなかなかできない。できるだけ生徒の中に入り、アドバイスをしていくが、グループ数も多いので細かな指導ができないのが毎年の課題である。ここでしっかり考えることができれば、作品全体もまとまりのあるものになるし、タイトルやレイアウトも決まってくる。

(4) タイトル・レイアウトを考え、記事を貼る

ただ貼るだけではなく、見る人にインパクトを与えるにはどうすればよいか、グループで話し合いながら作業をしていく。生徒が最も工夫をし、協力しているのがこの作業である。切り抜いた写真を使ったり、自分たちでイラストを描いたりするなど、特に生活デザイン科の生徒は熱心に作業をしていた。しかし、内容よりもこの作業の方に熱が入ってしまったグループもあった。

(5) コメント・感想・まとめを書く

この内容が作品全体のできを大きく左右するが、この段階までくると、グループによって取り組み方にばらつきがでてきた。適当に書いて「もうできた」というグループもあれば、しっかり考えて書いているグループもある。いきなり模造紙に書かせるのではなく、一度他の用紙に文章の下書きをさせ、教員が内容を指導するべきであった。

(6) 評価（事後アンケートから抜粋）

ア 切り抜き作品作りの前と後で、新聞に対する印象はどのように変わりましたか。

- ・新聞はもっと堅苦しいものだと思っていたけど、読んでみると楽しく、わかりやすく書いてあるとわかった。ニュースや新聞が身近に感じられるようになった。
- ・今まで知らなかったことがたくさん載っていて興味を持った。
- ・テレビ以上に情報を得られるものだとわかった。
- ・普段気にしていなかったニュースを見るようになった。もっと知りたくなった。
- ・自分の気になる記事だけでも目を通すようになった。
- ・小さな記事でも大事なことや地域のこととかたくさん書いてあるから、楽しく新聞を見ることができるようになった。

イ 「新聞切り抜き作品」作りの感想を書いて下さい。

- ・新聞をじっくり読むことはあまりなかったけど、今回記事を探すためにたくさんの新聞を読んで、面白いなと思いました。新聞一つでいろいろなことがわかるので、それもメリットだと感じました。
- ・家で新聞を取っていないので、詳しく見ることができよかったです。
- ・今回じっくりと新聞の内容を読んで知ることができ、悪いニュースなら対策を考えたり、良いニュースは友人や家族などに教えたりすることができました。
- ・ニュースではわからないことがたくさん載っていて、自分の住んでいる地域のことが載ると楽しくなったり、たくさんの経験ができ、学ぶことができました。
- ・自分たちで進めなければならず、だからこそ、頭に内容がしっかり入ってきてとても楽しかったです！！
- ・一人でやるのではなくグループで協力して作り上げていくものだから、完成したときの達成感がすごかった。
- ・協力しないとできないので、あまりしゃべらない友だちとも話すことができた。
- ・人によって選ぶ記事やデザインのしかたが違ってとても面白いなと思いました。



3 成果と課題

(1) 成果

アンケートからわかるように、新聞に興味を持ち、読んでみようと思うようになった生徒が増えたことがいちばんの成果である。普段読まない新聞も、友だちと記事を探すうちに気になる見出しに目がとまり、知らず知らずのうちに読むようになっていた、という生徒が大変多かった。作業中に記事の内容についての質問をしてくるなど、きっかけさえあれば社会のできごとに興味を持ち、もっと知りたいと思うようになるということもわかり、地歴公民科の教員としてうれしい成果が見られた。

(2) 課題

反省としては、作品完成後に発表の機会を持てなかったことである。特に調理国際科・生活デザイン科は世界史Aの授業時間を使っているため、あまり多くの時間を新聞切り抜き作品作りに回すことができない。しかし、自分たちの考えを深めて発表するための活動も生徒には意義のあるものとなるはずなので、工夫していかなければならない。

そして最大の課題は、作品を完成させるということだけが目標になってしまっている現況から前進し、記事の内容を読み取り、自分たちの考えをまとめていくという深い学びにまで到達させるにはどうすればよいかということである。そのためには、この活動を地歴公民科や3年生だけでなく、他の教科や学年にも広げていく必要があると考える。教科の特性や学年の状況をふまえ、3年間を見通した指導計画を作って連携を深めていくことができれば、より深い学習活動に発展していくことも期待できる。

おわりに

5年前に普通科のみでこの活動を始めた、生徒が予想以上に楽しそうに新聞を見ていたのが印象的であった。その後活動を普通科以外にも広げ、試行錯誤を繰り返して現在に至っている。選挙権が18歳以上に引き下げられ、主権者教育をいかに進めていくかということも現在の課題の一つであるが、その点からもこの活動のようなNIE事業は有効であり、多くの知識・情報を得て自分の意見を作り上げていくことに結びついていくだろう。本校の生徒に適切な指導方法を探りながら、今後もこのような取り組みを続けていきたい。